

令和 2 年度 第 9 回丸亀城石垣崩落対策本部会議録

1 開催日時 令和 2 年 1 2 月 1 4 日（月）午前 1 0 時 4 5 分～午前 1 1 時 2 0 分

2 開催場所 本館 2 階第 3 会議室

3 議 事

(1)石垣崩落のメカニズム（中間報告）

- ・丸亀城の石垣がなぜ崩れたのか、どのように崩れたのか、メカニズム解析は 2 度と壊れない石垣に復旧し、丸亀城石垣全体を適切に維持管理するため重要になるので、鹿島建設と協議を重ね、中間報告に至った。2 部構成で、①丸亀城跡石垣構築の歴史と構造、②石垣崩落のメカニズムを報告する。同じ内容を 12 月 16 日丸亀城石垣復旧復興特別委員会、1 月 10 日現場見学会で報告することになっている。
- ・解体は全て終わっていないので、これからわかってくることも多々あると思うが、崩落のメカニズムとして大きく変わることはない。最終形が出た段階で再度報告する。

①丸亀城石垣構築の歴史と構造（文化財的立場から）

- ・絵図から見る丸亀城跡南西部の変遷について
- ・江戸時代の記録と発掘調査による改修、破損の痕跡
- ・三の丸坤櫓跡の構造（西側、南側）
- ・石垣修理工事（帯曲輪南西角部 S52～53、帯曲輪南側 H6）
- ・雨水排水施設となる栗石と雨水排水口
- ・三の丸西側石垣と坤櫓台石垣のき損
- ・三の丸坤櫓跡、帯曲輪崩落前の遺構位置と崩落範囲

②石垣崩落のメカニズム

- ・工事、調査、解析でわかったこと
地盤調査、室内試験から得られた情報、掘削工事中に得られた盛土内の情報、浸透流解析から想定される盛土内水位状況
- ・崩落メカニズムの推定（中間報告）
帯曲輪南面、帯曲輪南西面、三の丸坤櫓跡の崩落メカニズムの推定
- ・今後について
現場での着目すべきポイント
帯曲輪の石垣内部状況、排水構造、根石の状況

→本来水はどう抜けるのか。石垣の内側に水は溜まったらいけないのか。(市長)

・解析結果から地下水位の上昇下降の繰り返しにより石垣が前面に動くことがわかっており、測量結果と結びついている。地下水が内部に溜まらず、適切に排水されていたら石垣の変形は起こらない。(丸亀城管理室長)

・讃岐の国は雨があまり降らないが、昨今の雨は豪雨傾向にあり、丸亀城の排水機能を上回る量の雨が降り続いたと考えている。解体が進めば排水施設のようなものが出てくるかもしれない。排水施設に代わるものを今後検討していかないといけない。(文化財保存活用課副課長)

・排水は土中の排水と表面排水が重要になる。表面排水は来年度以降丸亀城保存活用計画で本丸も含めて丸亀城全体の排水を考える。(文化財保存活用課長)

→根石はいつ頃わかるのか。(市長)

・帯曲輪の根石はえぼし石垣を解体してからになる。年度末か年度明けの見込み。(丸亀城管理室長)

→三の丸の根石が先に出るのか。(市長)

・三の丸の根固めの石垣が帯曲輪の根石付近まで落ちており、帯曲輪とほぼ同じレベルでわかると思う。三の丸も帯曲輪も解体が進まないと根石の状況はわからない。(文化財保存活用課副課長)

4 出席状況

(1) 本部構成者（第3条）

職	氏 名	出欠
市 長	梶 正 治	○
副 市 長	徳 田 善 紀	○
教 育 長	金 丸 眞 明	×
モーターボート 競走事業管理者	大 林 諭	○
市 長 公 室 長	横 田 拓 也	○
総 務 部 長	栗 山 佳 子	○
健康福祉部長	宮 本 克 之	○
市民生活部長	小 山 隆 史	○
都市整備部長	吉 本 博 之	○
産業文化部長	山 地 幸 夫	○

ボートレース 事業局次長	矢 野 浩 三	○
教 育 部 長	石 井 克 範	○
消 防 長	田 中 道 久	○
議会事務局長	渡 辺 研 介	○

(2) 関係職員

市長公室職員課長	井 上 孝 敏
市長公室秘書政策課長	窪 田 徹 也
市長公室秘書政策副課長	谷 本 智 子
市長公室秘書政策課製作推進担当長	宇 野 大志郎
総務部財政課長	宮 西 浩 二

(3) 事務局

教育部文化財保存活用課長	七 座 武 史
教育部文化財保存活用課副課長	東 信 男
教育部文化財保存活用課丸亀城管理室長	上 甲 育 司
教育部文化財保存活用課丸亀城管理室	真 鍋 和 江